

エコタウン事業 発進!!

響灘地区を先進地域へ

1990年代に入ると、北九州市は環境国際協力の方で新たな環境政策に取り組みました。この頃、循環型社会の実現に向けて国の動きも活発になり、平成9(1997)年、当時の通商産業省が「エコタウン構想」を打ち出したときには、すでに北九州市は広大な響灘埋立地において「響灘開発基本計画」に取り組んでいたもので、環境・リサイクル産業の振興を柱とした「北九州エコタウンプラン」が全国に先駆けて承認され響灘地区において「北九州エコタウン事業」がはじまりました。

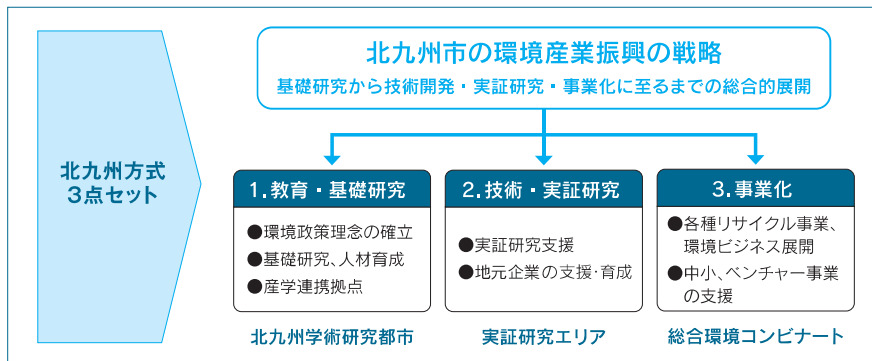
今では全国最大級の規模を誇る「北九州エコタウン事業」は、環境保全と産業振興施策である「教育・基礎研究」「技術・実証研究」「事業化」の3つを統合した「北九州方式3点セット」と呼ばれる環境産業振興戦略が特長です。あらゆる廃棄物をリサイクルや他の産業の資源として活用して、可能な限り廃棄物をゼロに近づける「ゼロ・エミッション」という技術や経営手法を駆使して、今も世界的に注目されています。

北九州エコタウン事業の実証研究数は67(終了分も含む)、事業数26は国内最大規模です。令和5(2023)年3月時点、総投資額は約888億円(市72億円、国など145億円、民間671億円)、雇用者数は約1,040名にのぼり、産業振興の面からも十分な成果をあげています。

また、エコタウンの視察者は、年間約10万人にのぼり、平成13(2001)年設立された「北九州エコタウンセンター」を拠点に、環境学習フィールドとしても活用されています。



響灘地区のエコタウン



この人に訊いてみた

当時、八幡製鉄所総務部開発企画グループ部長
川崎 順一さん

全国で初めて!



全国のエコタウン
事業のリーダー
になったんだよ!

※ていたんらブラックしていたん。北九州市

設備技術者だった私が異動先で企画段階から関わった「北九州エコタウン事業」では、不思議なご縁に恵まれました。コンサルタント抜きで主体的かつ前向きに取り組めたおかげで、国のエコタウン制度創設のきっかけを作れたと思います。ちょうど循環型社会づくりの機運が高まり、法整備が進んでいた中で着想したのがペットボトルリサイクル事業を興すこと。バブル崩壊後の多難な時期でしたが、あらゆる手段を講じ、私たちの徹底した情報公開が市民をわが応援団へと導けたこともあり、「産官学民」が一体になれば実現不可能なことなどない」と強く感じました。

先駆者の苦悩を糧に

平成10(1998)年7月、新日本製鐵株式会社(現・日本製鉄株式会社)が物流大手企業にも出資を呼びかけて設立した西日本ペットボトルリサイクル株式会社がリサイクル事業第1号となって操業を開始しました。全国的にも新しい試みに始めのうちは苦戦しましたが、これ以降、OA機器、自動車、家電、蛍光管などのリサイクル事業が次々に立ち上がり、現在までに多くの企業がエコタウンエリアに進出しています。

しかし、これら企業の中には研究・技術開発について資金的に苦勞する企業もたくさんありました。そこで、新規性・独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、研究開発費の一部を助成する制度が平成15(2003)年度にスタートしました。このエリアでは、令和5(2023)年度3月時点で延べ67件の実証研究が行われています。

進化し続ける「北九州エコタウン」

近年、将来的な資源制約や環境問題等を背景に、世界では“大量生産、大量消費、大量廃棄”から、“資源の効率的・循環的な利用の重要性”が叫ばれています。北九州市においても、“ゼロからモノをつくる企業”と“廃棄物を再資源化する企業”の連携は事業を持続させる新たな成長エンジンであり、次世代を担う新たな環境産業の重要なテーマとなっ



西日本ペットボトルリサイクル株式会社



福岡大学資源循環・環境制御システム研究所(産学官連携研究機関)

ています。その一つが蓄電池のリサイクルシステム構築です。北部九州には自動車の製造拠点が集積しています。電気自動車が普及する将来を見据えると、リサイクル産業の集積地である北九州市は、蓄電池リサイクルの拠点として大きなポテンシャルを持っています。

ものづくりの街の
底力さ♪



伸びしろしかないね